

「パウロ、フェリクスの前で訴えられる」

2016年09月14日

使徒言行録 24 章 1 節～9 節 五日の後、大祭司アナニアは、長老数名と弁護士テルティロという者を連れて下って来て、総督にパウロを訴え出た。パウロが呼び出されると、テルティロは告発を始めた。「フェリクス閣下、閣下のお陰で、私どもは十分に平和を享受しております。また、閣下の御配慮によって、いろいろな改革がこの国で進められています。私どもは、あらゆる面で、至るところで、このことを認めて称賛申し上げ、また心から感謝しているしだいです。さて、これ以上御迷惑にならないよう手短かに申し上げます。御寛容をもってお聞きください。実は、この男は疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒動を引き起こしている者、『ナザレ人の分派』の主謀者であります。この男は神殿さえも汚そうとしましたので逮捕いたしました。閣下御自身でこの者をお調べくだされば、私どもの告発したことがすべてお分かりになるかと存じます。」他のユダヤ人たちもこの告発を支持し、そのとおりでであると申し立てた。

ローマの千人隊長はパウロを巡るユダヤ人たちの騒動に巻き込まれ、真相を突き止めようと、パウロを捕らえて鎖で縛り、鞭打ちで自白させようとした。その時、パウロがローマの市民権を持つ者であることを告げられ、恐れた。市民権を持つ者を不当に扱うことはローマ法では許されないことであるからである。彼は最高法院を開いて、正規の手続きで、真相を明らかにしようとした。その最高法院でサドカイ派とファリサイ派の議員たちの争いが生じ大荒れになり、パウロを保護せざるを得なくなった。しかし、ユダヤ教の律法に関する事柄であることが分かった。彼は、市民権を持つ者の扱いは総督の専権事項であるので、カイサリアにいる総督フェリクスの下に送ることにした。パウロを暗殺するまでは断食するというグループがあるとの密告を受け、総勢 470 人のローマ兵に護衛させて、フェリクス宛の手紙を認め、送り届けた。ユダヤ人たちのパウロに対する怒り、また、パウロを守らなければならない任務が、いかに大きいものであったかが分かる。パウロを受け取ったフェリクスは告訴する者たちが来るまで、ヘロデの官邸に留置するように命じた。

5 日後、エルサレムから大祭司アナニアは数名の長老と弁護士テルティロを連れて来て、パウロを総督に訴え出た。フェリクスの前にパウロを呼び出し、裁判が始まった。まず、弁護士テルティロが告発を始めた。彼はユダヤ法はもちろん、ローマ法にも通じる弁護士であったらう。彼は「フェリクス閣下、閣下のお陰で、私どもは十分に平和を享受しております。また、閣下の御配慮によって、いろいろな改革がこの国で進められています。私どもは、あらゆる面で、至るところで、このことを認めて称賛申し上げ、また心から感謝しているしだいです」と言っている。これは、明らかにおべっかで、フェリクスの時代、ローマに反逆する熱心党・シカリ派が暗躍し、ユダヤは混沌としていた。裁判を自分たちに有利に運んでもらおうと、フェリクスに取り入った挨拶である。テルティロは、迷惑がかからないように手短かに申し上げますので、寛容にお聞きくださいと言い、下記の 3 点を訴えている。① パウロは疫病のような人間で、ローマの平和を乱す者である。② ユダヤ人の間で騒ぎを起こしている「ナザレの分派」の首謀者である。③ ユダヤ人が最も大切にしているエルサレム神殿の冒涇者である。そして最後に、総督ご自身で調べてくだされば、私どもの告発をお分かりになると弁じた。同行したユダヤ人たちも、告発通りであると、口を揃えた。